

クルマを使う事業者だからこそ「安全運転」を 交通事故防止研修を開催

赤帽山梨県軽自動車運送協同組合(丹羽孝徳理事長)は、1月9日(土)に甲府市総合市民会館で、一般社団法人山梨県交通安全協会の渡辺正彦次長を講師に「交通事故防止」をテーマに組合員を



研修会の様子

対象に研修会を開催、組合員25名が参加した。

この研修会は、最近、近県で赤帽自動車の交通事故が多発していることから行われたもの。冒頭で交通事故を起こしたことにより家族が崩壊していくという内容のビデオを見た後、渡辺次長による講習を受けた。

渡辺次長からは「最近、死者件数は減少しているが、事故件数が増加している。また、以前は高齢者が事故に遭うことが多かったが、今は高齢者が事故を起こすことが多くなっている。運転行動は、認知判断-操作の繰り返しであり、運転のA当たり前の事を・Bばんやりせず・C集中してやるが大切である。交通事故の恐ろしさは、自分だけではなく家族などの多くのものを失ってしまうことになりかねない。事故の当事者に絶対ならないように、意識ひとつで事

故は防げる。」などの話がされ、参加者は熱心に聴講した。

丹羽理事長は、「我々はクルマで荷物を運ぶことを仕事にしているの、交通事故を起こす危険性も高い。運転も慣れてしていると注意力が散漫になってしまいがちで、ちょっとした心の緩みから交通事故を起こしてしまうと、生活の糧を失うことにもなりかねない。組合員の経営の安定のためにも、組合員の安全意識向上のための研修会を定期的に行っていききたい。」と組合の研修事業の重要性を語った。



講師の渡辺正彦次長